

お客様に選ばれる代理店に

神奈川代協

2024年度通常総会を開催



三ヶ尻会長

総会審議に先立ち挨拶した三ヶ尻会長は、さきごろ募った能登半島地震の義援金について、神奈川代協で29万5578円、日本代協全体で816万4707円が集まり、被災地にある石川県代協に寄付したことを報告した。代協の意義について三ヶ尻会長は「代協の目的は会員同士が切磋琢磨して代理店力を高め、お客様に選ばれる代理店になることだ。すべての会員の本業を今以上に良い状況にすることを目指している。損害保険業に携わったからにはぜひ、積極的に会に参加してもらいたい」と述べた。

次いで、来賓から損害協会神奈川損保会会長の杉山真詩氏(あいおいニッセイ同和損保・理事横浜支店長)と日本代協理事の雨宮豊氏が挨拶。杉山氏は、昨年度に神奈川代協が、神奈川県版の悪質住宅修理業者対策チラ

会員同士が切磋琢磨

本業を今以上に良い状況に

神奈川代協(三ヶ尻明広会長)は5月21日、2024年度通常総会を横浜市のビジネススクエアで開催した。総会では2023年度事業報告や2024年度事業計画などの付議事項が審議され、いずれも可決となった。総会後のセミナーでは、日本代協理事で組織委員長の藤山裕介氏が「代協の歴史と必要性」について講演。「日本代協は、公益性よりも公益性を重んじている。これが当代協の最大の特徴だ」と強調した。

災害時に備え特別積立金を計上

した各種取組み、消費者へのリスクマネジメントの理解浸透の3点を中心に取り組んでいく」として、代理店の理解と協力を求めた。

雨宮氏は、現在開催されている損害保険業の構造的課題と競争のあり方に関する有識者会議について言及。「この有識者会議は、昨年度表面化した保険金不正請求や保険料の価格調整問題に端を発したもので、顧客本位の業務運営とはどうあるべきか、経営体制はこの互の連携を強化した活動を行う」「会員皆が笑顔あふれる有意義な活動となるよう企画運営する」の3点を掲げた。

ものになっている。この会議には日本代協もオブザーバーとして出席している。全会議終了後には今後の対策や目指していくべき姿を皆さんにも報告する予定だ」と述べた。

議案審議に入り、第三号議案の2024年度事業計画の説明にあたった三ヶ尻会長は、今年度の各種活動にあたっての留意点として「オンラインとリアルを組み合わせた効果的な効果が高い運営を行う」「委員会相互の連携を強化した活動を行う」「会員皆が笑顔あふれる有意義な活動となるよう企画運営する」の3点を掲げた。

第四号議案の2024年度収支予算案承認の件では、災害時の備えのための防災準備金として特別積立金200万円を資産の部に計上することとした。説明にあたった竹内雅二財務委員長は「神奈川県は場所柄、ひとたび大地震が起きたら甚大な被害を受けるので、防災のための準備金を積んでおきたい」と述べ、会員に理解を求めた。



杉山氏



雨宮氏

総会後はセミナーが行われ、日本代協理事で組織委員長の藤山裕介氏が「代協の歴史と必要性」について講演した。代協の特徴について藤山氏は「一般社団法人はえてして自分たちの利益を守ることを目的とするが、日本代協は組織目的として『保険契約者及び一般消費者の利益保護を図るため』と掲げており、公益性よりも公益性を重んじている。これが日本代協の最大の特徴だ」と話した。

あれば対処し、企画環境委員会に報告する」「顧客本位の業務運営を妨げる事案は、情報を収集し企画環境委員会に報告する」「代理店の合併・統合・乗合承認等、保険会社戦略の展開状況を注視し、保険会社の対応が一方的・圧力的であると判断される場合は、企画環境委員会に報告する」の3点を盛り込んだ。